



茨城大学
Ibaraki University



げんぞう
The Japan Atomic Power Company

身近な事例から最新の地域防災を考える

地域防災 シンポジウム

2023

3.6月

13:00-16:55

会場/水戸京成ホテル「瑠璃の間」

ハイブリッド開催

<Zoom ウィブナー>

事前申込みはこちら

[会場の参加申込期限: 令和5年3月3日 正午]



現地定員 **50名** ※申し込み先着順受付となります。
※参加申込者数が定員に達した場合は、受付を終了とさせていただきます。

参加費
無料

主催/茨城大学

研究・産学官連携機構

■主催/日本原子力発電株式会社

■問合せ/茨城大学

研究・社会連携部

研究推進課

研究総務係

TEL: 029-228-8601

E-mail: g1.soumu@ml.ibaraki.ac.jp

E-mail: g1.soumu@ml.ibaraki.ac.jp

PROGRAM

開会挨拶

13:00 ~ 13:05

茨城大学 副学長
研究・産学官連携機構 機構長 **金野 満**

基調講演①

13:05 ~ 14:05

近年の河川災害にみる問題点と適応策・対策

東北大学大学院 工学研究科 土木工学専攻
水環境学講座（水環境システム学分野）教授 **風間 聡氏**

東北地方を中心に 2019 年以降に生じた洪水被害の特徴を説明し、地方の中小河川が抱える問題を示します。洪水シミュレーションによる気候と土地利用の将来シナリオに応じた被害予測と、複数の対策を講じた際の効果をお見せします。これらを踏まえ、将来に向けての国土のあり方について聴講者との議論を期待しています。



基調講演②

14:05 ~ 15:05

原子力防災と放射線 ~行動を起こすために最低限知っておくべきこと~

福井大学 附属国際原子力工学研究所
原子力防災・危機管理部門 教授 **安田 仲宏氏**

東京電力福島第一原子力発電所の事故から 12 年が経過しようとしている。日本の原子力防災体制は抜本的な見直し・強化が行われた一方、記憶の風化による原子力防災への関心の低下が懸念されている。世界的に見た場合には、原子力事故が繰り返し起こっていること、影響が国境を越えて広範に及ぶことを考慮すると、継続的な啓発活動が必要である。大学と行政、電力会社などとの連携による地域の防災力向上の取組みを紹介する。



休憩 15:05 ~ 15:20

研究成果発表

15:20 ~ 16:50

① 防災に資する地域気象・災害情報の研究

茨城大学 理学部 若月 泰孝 准教授

② 防災・環境センシングプラットフォームに関する基礎研究

茨城大学 工学部 武田 茂樹 教授

③ 災害・地域レジリエンス向上のためのボトムアップアプローチ —対話による環境共創とまちづくりのためのアクションリサーチ—

茨城大学 人文社会科学部 伊藤 哲司 教授

④ 避難所における生活環境の改善に関する研究

茨城大学 工学部 熊澤 貴之 教授

⑤ 心の減災デザインの研究

茨城大学 教育学部 齋藤 芳徳 教授

⑥ 避難所アクセシビリティと住民の避難意識・行動

茨城大学 人文社会科学部 田中 耕市 教授

閉会挨拶

16:50 ~ 16:55

日本原子力発電株式会社
常務取締役 東海事業本部長 **坂佐井 豊**

シンポジウム閉会后、名刺交換会を開催 17:00 ~ 17:45

地域防災

身近な事例から最新の地域防災を考える

シンポジウム

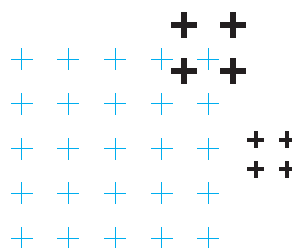
2023
3.6月

13:00-16:55

会場/水戸京成ホテル「瑠璃の間」

ハイブリッド開催

<Zoom ウェビナー>



参加事前
申込みはこちら

会場の参加申込期限：
令和5年3月3日正午



現地定員 50名 ※申し込み先着順受付となります。
※参加申込者数が定員に達した場合は、受付を終了とさせていただきます。

■主催
茨城大学 研究・産学官連携機構

■共催
日本原子力発電株式会社

■問合せ
茨城大学 研究・社会連携部
研究推進課 研究総務係
TEL : 029-228-8601
E-mail : gj-soumu@ml.ibaraki.ac.jp